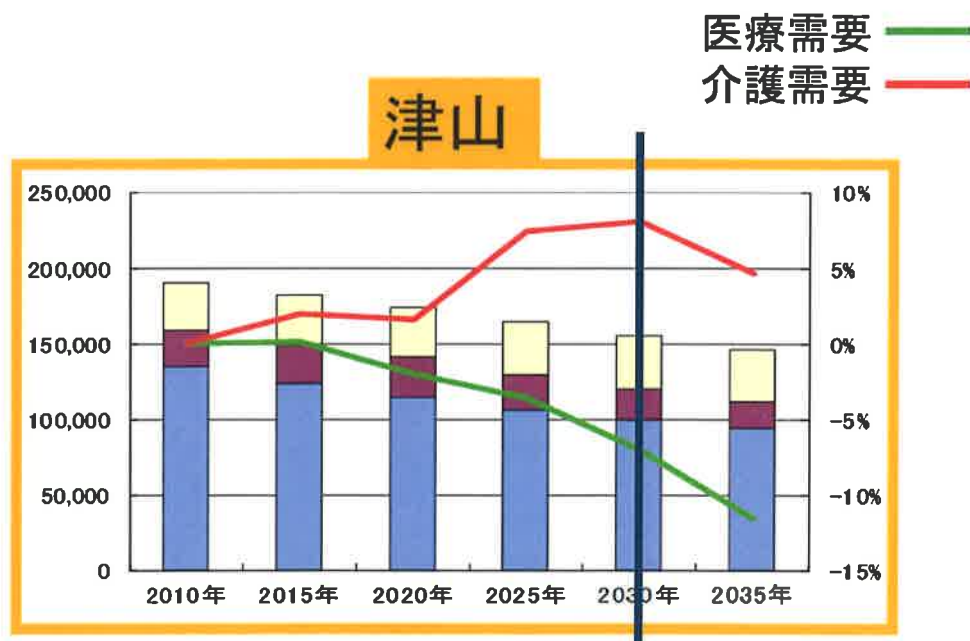




公的医療機関等2025プラン

津山中央病院

津山の医療・介護需要予測



津山・英田 入院患者 高度急性期・急性期を 追い求める！

疾患分類	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
感染症及び寄生虫症	100%	101.21%	100.07%	103.22%	102.20%	98.81%	92.99%
新生物	100%	100.55%	98.45%	96.63%	93.82%	90.02%	85.52%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	100%	98.41%	96.00%	97.99%	96.46%	92.83%	86.88%
内分泌、栄養及び代謝疾患	100%	101.04%	99.83%	99.93%	97.18%	93.14%	88.36%
精神及び行動の障害	100%	97.83%	94.59%	90.60%	87.01%	82.88%	78.31%
神経系の疾患	100%	99.17%	97.04%	98.11%	95.99%	92.13%	86.39%
眼及び付属器の疾患	100%	101.36%	99.95%	100.49%	98.65%	95.08%	90.09%
耳及び乳様突起の疾患	100%	97.18%	95.62%	97.42%	94.93%	90.51%	84.42%
循環器系の疾患	100%	101.13%	100.02%	103.30%	102.42%	99.08%	93.15%
呼吸器系の疾患	100%	100.85%	99.60%	103.76%	103.22%	99.97%	93.74%
消化器系の疾患	100%	100.03%	97.91%	98.50%	96.66%	93.11%	87.74%
皮膚及び皮下組織の疾患	100%	100.87%	99.64%	103.24%	102.31%	98.91%	92.93%
筋骨格系及び結合組織の疾患	100%	100.93%	99.54%	101.24%	99.51%	95.91%	90.51%
腎尿路生殖器系の疾患	100%	100.64%	99.28%	100.94%	99.13%	95.44%	90.02%
妊娠、分娩及び産じょく	100%	88.84%	81.47%	77.55%	74.23%	69.62%	64.15%
周産期に発生した病態	100%	91.32%	80.67%	73.21%	68.78%	65.08%	60.93%
先天奇形、変形及び染色体異常	100%	93.00%	85.36%	78.94%	74.02%	69.62%	64.66%
損傷、中毒及びその他の外因の影響	100%	100.34%	98.83%	101.16%	99.91%	96.42%	90.55%
総数	100%	99.94%	98.00%	98.80%	96.92%	93.27%	87.83%

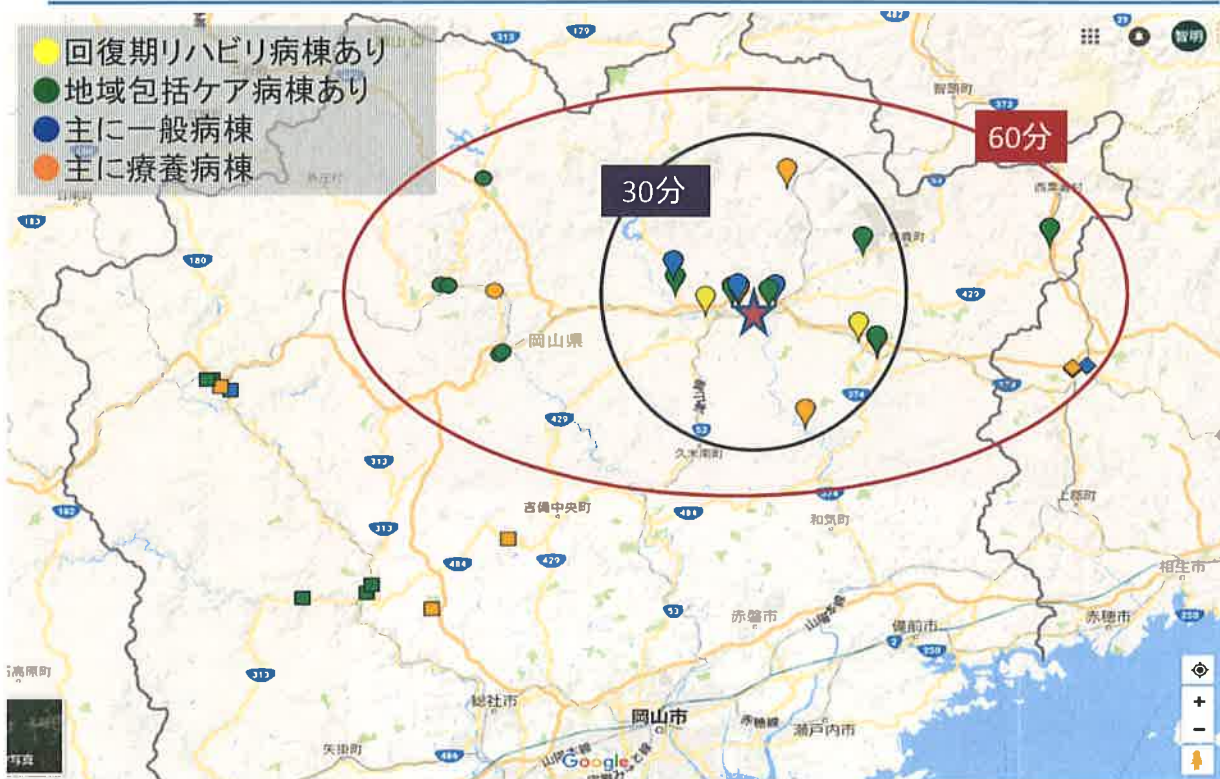
上記から単純計算した必要病床数…

535床	534床	524床	529床	519床	499床	470床
------	------	------	------	------	------	------

増減
100%↑
95%↓
90%↓
80%↓

連携後方病院と時間的距離

Tsuyama Chuo Hospital



「地域医療構想」の中での津山中央病院

- いざという時の入院体制(救急中心)
- しっかりした機能分化
(高度急性期、一般急性期)
- 回復期、地域包括ケア、慢性期への橋渡し

津山中央病院の患者内訳



	患者数 (H27.12平均)
高度急性期 (3000点以上)	144 (31%)
急性期 (2999点~600点)	270 (58%)
回復期 (599点~175点) 慢性期・在宅医療等 (174点~0点)	52 (11%)
合計	466

重症度・看護必要度

高い

中等度

低い

病床の機能別分類の境界点(C1~C3)の考え方

	医療資源投入量	基本的考え方
高度急性期	C1 3000点	救命救急棟やICU、HCUで実施するような重症者に対する診療密度が特に高い医療(一般病棟等で実施する医療も含む)から、一般的な標準治療へ移行する段階における医療資源投入量
急性期	C2 600点	急性期における医療が終了し、医療資源投入量が一定程度落ち着いた段階における医療資源投入量
回復期	C3 225点	在宅等においても実施できる医療やリハビリテーションの密度における医療資源投入量
※		ただし、境界点に達してから退院調整等を行う期間の医療需要を見込み175点で推計する。

※ 在宅復帰に向けた課題を要する場合は175点で区別して推計する。なお、175点未満の患者数については、慢性期病棟及び在宅医療等の患者数として一体的に推計する。

今回の診療報酬改定で激震

Tsuyama Clinic Hospital



- 7:1入院基本料:重症度、看護必要度25.0%
→26.6%にUP
 - H28年度平均26.8%
 - 前述の回復期、慢性期の11%が大きく作用
 - 全体で約3%の影響力を持つ
- ↓
- 経過によってはこの11%の機能わけが必要になるかもしれない
-